

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育型児童デイ クライムアップ桑津教室		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 19日		R8年 2月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	R8年 1月 19日		R8年 2月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な運動器具を活用し、基礎体力の向上に継続的に取り組んでいる。	視覚支援や反復練習を取り入れ、楽しみながら取り組める環境を整備している。	成功体験を積み重ね、自己肯定感の向上と生活面での自信につなげていく。
2	日課を整えることで、見通しを持った生活習慣の定着につながっている。	活動の中に一定の流れを設け、スケジュールを意識した行動が取れるよう支援している。	将来的に自分で予定を立て行動できる力の育成につなげていく。
3	同年代児童が多く、集団に馴染みやすい環境が整っている。	安心できる環境づくりと関わりの機会を増やし、コミュニケーションを促進している。	ペア活動や協力型活動を増やし、協調性や役割意識を育てていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動を中心とした活動は安定して実施できているが、児童の興味関心や個々の特性に合わせた活動の幅をさらに広げていく必要がある。	現在の活動内容は一定の成果が見られる一方、職員の専門性や得意分野を十分に活かしてきていない場面がある。また、新しい活動の企画・検討に充てる時間の確保が課題となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員の資格や特技を活かした新規プログラムの導入 季節行事や地域資源を活用した活動の拡充 児童・保護者アンケートを実施しニーズを反映 室内外活動のバランス調整
2	重大事故は発生していないが、日常の安全確認やヒヤリハットの共有体制をより強化していく必要がある。	環境整備は継続して実施しているものの、業務の慣れによる確認の抜けや情報共有のタイミングにばらつきが生じる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な安全点検チェックリストの活用 ヒヤリハット事例の共有と振り返り 避難訓練や安全研修の定期実施 保護者への安全対策の発信
3	支援記録や書類作成に時間を要しており、支援時間確保や職員負担の観点から効率化が求められる。	記録方法の統一が不十分な部分や、手書き・入力の重複などが業務効率低下の一因となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 記録様式の統一 ICTツールの活用検討 業務マニュアル整備 定期的な業務見直し